

風のように

甘木教会



主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一

どうしてわたしが、この大いなる都ニネベを惜しまずにいられるだろうか。

ヨナ書 4：11

このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。

マタイによる福音書20：15

【説教要旨】

朝早くから雇われた者、最後の一時間前に雇われた者に等しくぶどう園の主人は一デナリオン払ったというのです。

一デナリオンというのは、4人の家族が充分に一日の生活をしていくのに足りる賃金です。

しかし、私たちはどうも合点がいかない。五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていた。しかし、彼らも一デナリオンずつであった。「それで、受け取ると、主人に不平を言った。『最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにすることは。』」というのが私たちの気持ちであり、当然の言葉だと思います。

しかし、神さまの気持ち、意志はどうだったのでしょうか。このたとえ話は私たちに語りかけてくださっています。自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。

ルーテル教会の特徴は「聖書のみ」、「信仰のみ」、「恵みのみ」という「三のみ」です。あるいは、「義認論」、信仰によって義とされるということです。

キリストの十字架の贖いによって、罪人である私たちが神さまと正しい関係、つまりアダムとエバに約束された樂園に留まることを許された。神の絶対愛によって私たちの存在があるということです。

ルターは、「このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。」という聖句で次のように説教をしています。

「実にこれこそ、福音の本質のひとつです。どんな人でも、もはや自分がいちばん低い者にされる恐れはないと言いきれるほど高く上がった人もありませんし、また、そこまで低く落ちることもできません。なぜなら、そこでは、あらゆる人間の功績は無価値であり、神のあわれみのみがたたえられ、『このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。』と明確に宣告されているからです。

『先にいる者が後になる。』とは、神があなたがたのすべての誇りをお取りになるという意味であり、『後にいる者が先になる』とは、神があなたがたのあらゆる絶望を取り去ってくださるという意味です。」

私たちは、神の憐みにあって、あらゆる絶望を取り去られた存在として一人一人がいかされているのです。

しかし、現実を生きるということになったとき、日毎の糧をうるべく努力をし、不安に苛まれて生きています。

私たち戦後の歴史で、ちょうど一日の糧をえることなく、午後の五時まで雇われずに不安と絶望の中に置かれた時代があったのです。しかし、高度成長以来、生活は一変し、豊かになり、私たちはいったん一日の保証を得るために苦労した時代を忘れてしまいます。そして私たちは、この不合理なことに『最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにするとは。』という文句を言い出す。一日の糧を得ることなく不安と絶望にあったこの五時の人の気持ちが分からなくなってはいないでしょうか。自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだという神

の御心、意志を忘れてはいないでしょうか。そういう私たちにイエスさまは今日の譬で、神のみ心を示される。誰もが等しく存在が与えられ、不安と絶望の中に生きることを望まれないということである。

主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。』

人が生きるに必要な一デナリオンを苦しみ、悲しむ者に等しく『わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。』という神の強い意志があるのです。

神のみ心は、共に等しく神の絶対愛の中で生きることのできる存在であるということです。

「わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。」という神のみ心に支えられた私たちは、同時にこの神さまのみ心を私の心、意志としていかなければならない時代を生かされているのではないのでしょうか。

不満をたらたら言った者にも、生活に不安を覚え、存在の危機にあった午後5時から雇われ者にも等しく、神は、共にいて下さり、私たちの存在を守っていて下さることを忘れないでいたいのです。私たちは、ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさいとパウロが進めるように、あらゆる人間の功績は無価値であり、神のあわれみのみがたたえられていくことです。ルターは、神の憐みに生きました。パウロは福音の戦いをあなたがたは一つの霊によってしっかり立ち、心を含ませて福音の信仰のために共に戦っており、どんなことがあっても、反対者たちに脅されてたじろぐことはないのだと。このことは、反対者たちに、彼ら自身の滅びとあなたがたの救いを示すものです。これは神によることです。とされています。今も「人によって」か「神によって」という戦いがあります。それゆえに福音、神の憐みを生きるように神に絶えず祈りましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると



縮小止まらず死にゆく「死海」、救う手立ても定まらず

Yahoo ニュースに上記の表題で掲載されていた。

「人間の活動と気候変動の影響を受けて、毎年約 1 メートルずつ水位が低下。湖面の面積はこの 50 年間で 3 分の 1 ほど縮小した。」とある。地球の温暖化、人間の社会の営みは、イスラエル、シリア、ヨルダンが死海にそそぐヨルダン川から飲料水、農業用水のために取水量が増え、水量はかつての 13 億立方メートルから約 1 億立方メートルまで減少し、確実に死に向かっているというのである。



すべては人間の営みによるものである。原因は、人間であるということである。そして、死海の死は、私たちの人間の死を予言しているように思える。

園長・瞑想？迷走記。



休園中の幼稚園の管理をしている。再開できるか
少子化の中で非常に厳しいところにある。

いつもこの園で子どもたちが元気に楽しく遊んでいる姿を想像しながら管理しながら夢をもつ。こうすればきっと子どもたちに
良いだろう、きっと喜ぶだろうと。結構、面白い。

来週は、幼稚園の倉庫を片付けるが、さらに良い環境で、いつも再開出来るように願っている。

秋になり、涼しくなるので、木造の園舎のペンキ塗りをしたい
と思っている。子どもたちが可愛いと思ってくれるように。

夢が多いほど、自分の歳と乖離があって、そのためにくっしゃ
となることがある。もっと、若かったらと。なんで、もっと若い
時に気づかなかったのか。でも、若いからといって、夢をいだ
き、これほど情熱を持てたらどうか。

若者は幻を見、老人は夢を見る。使徒言行録 2 章 17 節

日毎の糧

聖書：主は恵みに富み、憐れみ深く／忍耐強く、慈しみに満ちておられます。詩篇 145：8



ルターの言葉から

キリスト者にとり人生の形式は福音の信仰、目的は罪の赦し、活動的な力は聖霊とこの世で苦難を負うという非必然的現象である。

『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

主は憐れみ深く、恵みに富み／忍耐強く、慈しみは大きい。

「主は御自分の道をモーセに／御業をイスラエルの子らに示された。103:7 主は憐れみ深く、恵みに富み／忍耐強く、慈しみは大きい。103:8」と詩篇 103 篇は、モーセに示された神の業と属性を詠う。145 篇は、「145:7 人々が深い御恵みを語り継いで記念とし」とは、出エジプトの起源とする「過ぎ越しの祭」、「仮庵の祭」、「除酵祭」、「七週の祭」をさすのだろうか。祭をとおして、「**主は憐れみ深く、恵みに富み／忍耐強く、慈しみは大きい。**」とイスラエルの民が詠った。私たちが降誕、受苦日、復活、聖霊降臨日という教会の祭をとおして、**主、イエス・キリストが憐れみ深く、恵みに富み／忍耐強く、慈しみは大きい**ということを知り、讃美となっていく。

今回、神は**忍耐強く**という言葉に心を向けていきたい。

「5:3 それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、5:4 忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出す」というパウロの言葉である。忍耐は、希望を生み出すのである。イエス・キリストは、希望を持ち続けるという方であるということではないだろうか。私たちがどんなに神に背いて、それは神の患難であるが忍耐して希望をもって、私たちを神のもとに帰ることを待っておられる。その神が私たちと寄り添って歩んでおられる。だから、「わたしの口は主を賛美します。すべて肉なるものは／世々限りなく聖なる御名をたたえます。145:21」と詠わざるをえなくなっていくのです。

祈り：忍耐なる主よ、希望を失うことないあなたの慈しみを讃美できますようにしてください。アーメン。

甘木通信

わたしの心は知恵と知識を深く見極めたが、熱心に求めて知ったことは、結局、知恵も知識も狂気であり愚かであるにすぎないということだ。これも風を追うようなことだと悟った。知恵が深まれば悩み深まり、知識が増せば痛みも増す。



コヘレト1章16節～18節

「高度成長生きぬいて」

私が生きぬいた日々は、日本が経済大国になる高度成長期だった。知恵と知識をもっともっと求め、得て、生活を向上させることであった。学べ、学べ、そして得て、この先は良い生活が待っているということを疑わず走りぬいた。

そんな時代に手塚治虫さんが描いた鉄腕アトム番組の光景が、まさか実現すると良いなと思っていたが、まさか実現するとは思わなかった。私のこの羨ましい物語だけしか記憶にないが、手塚治虫は、実は最終回で、地球の悲惨な世界を描いている。知恵と知識の行きついたところは、地球の環境汚染と人間の減少と人間に代わって人工知能をもったロボットの支配、そのロボットが遺伝子組み換えによって人間を生み出し、殺し合いの見世物にするという世界だった。それは、現代の先に起こることを予言しているように思える。「結局、知恵も知識も狂気であり愚かであるにすぎないということだ。これも風を追うようなことだと悟った。知恵が深まれば悩み深まり、知識が増せば痛みも増す。」というコヘレトの物事を見抜いた言葉に私たちは具体的に応えていく時代にいるのではないだろうか。

(甘木日記)土) 松崎保育園に寄り、午後からキリスト教講座。夜は公営温泉へ。日) 礼拝後、少しお茶をみなさんと飲み、午後から新幹線で東京へ。車中でPCで事務作業。月) 羽村幼稚園の緊急管理者会議。火) 始発の飛行機で福岡。朝から最終まで幼稚園。水) 今日も子どもたちと楽しく過ごす。大人想いを越えて子どもたちは楽しそうにしている。帰宅し、先週、松崎幼稚園の園児と約束した切り絵を完成。木) 保育園、教会と車でいくがまだなれていない。金) 早朝、東京へ。目標を目指し走る。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。 はぐちらない聖人（牧師）もいますが。



土）甘木教会へ。キリスト教講座を。今日は終わり。公営温泉へ。泊。日）昨日は夜、雨になり、草花への水撒きがない分、時間があり、ポータチュラカの苗を植えた。「涼しくなったら元気に咲き始めますよ」と花屋さんが言われた通りに花が大きくたくさん咲き始めた。すべてに時があると自然は教えて

くれる。9月はルーテル教会の教会讃美歌を使う。特徴の北欧の讃美歌を選び、説教で讃美頌の詩篇を用いて北欧の讃美歌詩人、サンデルベルクの話と日本のルーテル教会の歴史を話す。主は憐れみ深く、恵みに富み／忍

耐強く、慈しみは大きいという神の真実であった。行政対応のために急遽、新幹線に乗って東京に向かう。月）朝から羽村幼稚園の緊急管理者会議。10月から施行されるこども家庭庁の新法の準備。他に12月に施行される法律もあり、準備に振り回される。副園長、事務員と一緒に午後から幼稚園の事務所書類の整理。どうにか整えられる。火）始発の飛行機で福岡に。9時半ぐらいには久留米の幼稚園に着き、園児を迎える。午後からこっくりこっくり。「10月園だより」の一篇を作り、19時に関係者に送る。職員室を閉めて最後に帰宅。水）早朝に行こうとするがぐずぐずしていると8時を越す。朝礼をし、園児を迎え、外の掃除。インパチエンスにセスジズメの幼虫。先生たちは嫌うが、子どもたちはつかまえて虫かごに。今日は全員で昼食を食べる。初めてのランチタイム。



小人数だから一人一人の子どもを観ることができる。R君が「園長先生が飲んでいた牛乳パックが欲しい」と言うので、コンビニ行き、牛乳を買って、飲み干し、パックをあける。後で分かったのだが私が飲み終わり、洗った牛乳パックを使って主任がカード入れにしているのを見て、欲しくなり言って来たということであった。子ども礼拝。午後から職員会議。今日も、職員室を閉めて最



後に帰宅。松崎保育園の子どもたちと約束していた羊飼いの切り絵をする。約束を守れ、ほっと。木）明日は急の様で東京に行くために、日善幼稚園の誕生日カードを書き、届けて、松崎保育園へ。今日は道を迷うことなく無事に行ける。保育園から甘木教会へいくと彼岸花が庭に開花。本当にお彼岸に合わせて咲く。いつも感心している。落花生に花が咲いている。実はなるだろうか。金）7時の飛行機で東京へ。体がよく動き、持つと自分自身が感心。